

「油久小学校の美座の棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

中種子町立油久小学校

2 学年・人数

5・6年生（計6人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年9月～10月 油久小学校5, 6年教室及び体育館

(2) 発表の日時・場所

令和5年11月2日（金） 油久小学校学習発表会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

美座の棒踊り（みざのぼうおどり）

(2) 由来

美座の棒踊りは、明治の初め頃、加世田方面から伝わったといわれている。豊作祈願やお祝い、人々を元気づけるときなどに踊られ奉納されてきた。しかし、美座集落の若者が担い手であった美座の棒踊りは、年々踊る人が少なくなり、1991年に1度途絶えてしまった。しかし、2008年に美座集落青壮年部の取組で復活し、その中で指導を受けた4年生以上の28人が校区と合同の秋季大運動会で披露したことをきっかけに、再び受け継がれていくこととなった。

(3) 構成等

唄と太鼓に合わせながら、3尺棒と6尺棒を使って踊る。構成は、入場（出端）→棒付き（切り込み）→本踊り（3尺・6尺）→退場（引端）となっている。唄に合わせて入場した後、途中からかけ足となる。特徴的な動きは、膝を深く曲げて足を踏み込むところや、大声を出して棒を打ち合うところである。

5 保存会や地域との連携の具体

これまで、棒踊りを披露する場合は、町民文化祭や生涯学習フェア、農林漁業祭など町が主催する催しと、油久小学校・校区合同秋季大運動会、油久神社大祭などであった。当時は、その時期になると、油久校区育成会の会長が美座集落の指導者に連絡を取り、練習日を設定したり、指導者が集落の青年団と一緒に指導にあたったりした。また、保護者の中にも、一緒に踊ったり指導したりする方がいた。しかし近年、コロナ禍の中で地域の取組が中断し、コロナが明けてからも、地域が中心となった棒踊りは復活していない。そのような中、油久小学校として、棒踊りの規模を縮小しながらでも伝承していきたいという願いから、高学年児童が、これまで撮影された映像を基に動きなどを練習し、油久小学校の学習発表会で披露している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

児童数の減少により、基本となる隊形を作ることが難しくなっている。そこで、ペア等の組合せを状況に応じて変えることで、隊形を維持することができるようにしている。練習方法について、子供たち自身で映像を見ながら動きをお互いに確認し合ったり、6年生が5年生に動きを教えたりするなど、意欲的に取り組む姿が見られた。

また、学習発表会で披露することで、保護者や地域の方々からも称賛の声が多く聞かれ、達成感や次年度への意欲へとつながっている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）

教室で映像を見ながら動きを友達同士で話し合い、繰り返し練習した。その後、体育館で舞台の広さに合わせて細かな動きを確認した。本番では、録音したかけ声に合わせて、堂々と踊ることができた。



【体育館での練習風景】



【学習発表会での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【5，6年生児童】

地域の伝統的な行事に取り組むことができ、とてもうれしい。本番の衣装を着ると気持ちが引き締まり、やる気もさらに出てきて、頑張ろうという気持ちが一層強くなった。また、自分たちが棒踊りに取り組むことで伝統を守ることができている。来年も是非続けていきたい（6年生：今後も下級生が伝統を守り、頑張ってもらいたい）。

【教職員】

練習の時から子供たちが自主的、意欲的に取り組み、動作や流れなどを身に付けていくことができた。そのような中で、自分たちが伝統を守っているという自負心をもつことができていることはとても素晴らしいことである。これからも、油久の伝統を子供たちが受け継ぎ、練習や発表を頑張ってもらいたい。

【地域の方から】

棒踊りは練習が大変だと思いますが、これからも受け継がれていくことを望んでいます。

油久の棒踊りは見る機会がなくなってきているので、これからも是非続けていってほしいです。

一生懸命頑張っている様子を見て感動しました。